

# 遺構説明板の解説文

遺構説明板は園内の要所15箇所、ARポイントは10か所にあります。

## ①天野坂から柵形虎口へ

大手口と思われる天野坂からの堀底道は、城兵が効果的に攻撃できるように工夫されている。小宮曲輪と三の丸の間には柵形虎口（出入口）が設けられていた（図の中で復元）。攻めのぼる敵側にとっては大変な脅威にさらされる場所、侵入するのが難しかったと思われる。

## ②小宮曲輪（家臣屋敷）

「小宮曲輪」と称されてきているので、氏照の家臣の中に西多摩地域出身の小宮氏が活躍していたと思われる。小宮曲輪の内部は土塁（土盛り）でいくつかの屋敷に区切られていたと考えられる。小宮曲輪と三の丸との間には柵形虎口（出入口）があったが、車道により消滅した（図の中で復元）。



## ③小宮曲輪柵形虎口（北の備え）

山の神曲輪方面から小宮曲輪へと攻め進むには、柵形虎口（出入口）を通過しなければならない。敵は狭い通路を列縦隊にならざるを得ない。それに対して城兵は、敵の頭上や側面から弓矢、槍、鉄砲で攻撃する。敵にとっては手ごわい場所に攻め入ることになる。

遺構説明板の解説文、全体図、部分図、想像図で構成されています。

## ④山の神曲輪（民衆の避難場所と推定される）

「山の神」とは全国各地に残る民間信仰で、農耕の神である。春は里に下り、秋は収穫を見守ると再び山に戻って行く。この山の神を祀る山の神曲輪は、城下や周辺村々の民衆たちを、敵の乱取り（放火や略奪）から守るために設けた避難場所であったと考えられる。永禄12年（1569年）、城周辺の村々は武田軍（武田信玄）によって焼き払われた。このとき、一般民衆は領主の城（滝山城）へ避難していたと思われる。

## ⑤コの字形土橋（強力な側面攻撃）

堀を掘る際に、一部を土のままに残して通路として使う場所を土橋という。当時はもっと狭く、敵方の侵攻に対して4回も体の向きを変えて進ませ、側面攻撃ができるように工夫していた。敵の直進を防ぐための土橋であり、大変貴重な城郭遺構である。

## ⑥馬出（少人数で守れる出入口前の防御設備）

虎口（出入口）の前方に設けた空間を馬出という。この場合は方形に作られていることから「角馬出」と呼ばれている。馬出があることによって大変堅固な守りとなり、守備する城兵の出撃も容易である。二の丸の3ヶ所の出入口には馬出がそれぞれ設けられている。

## ⑦弁天池跡

（宴を楽しむような池と推定される）

眼下には中の島と池跡が見える。実は、氏照の弟、氏邦の鉢形城（埼玉県寄居町）にも中の島があり、その池を「弁天池」と呼んでいた。今は、池をせき止める土手は分断されているが、当時はつながっていて湧水や雨水を溜めていた。小舟を浮かべて宴を楽しむような池だったと思われる。



二の丸（右手）と空堀

## ⑧二の丸（集中防御）

滝山城で最も防御性が優れているのが二の丸である。3ヶ所の虎口（出入口）には

すべて「馬出」を備え、集中的な防御の構えが認められる。大馬出は大勢の城兵が守り、二方向からの通路を抑えている。築城家は、二の丸を防ぐことによって本丸、中の丸を守れると考えたようだ。

## ⑨行き止まりの曲輪（ふくろのねずみ）

「行き止まりの曲輪」とは、「ふくろのねずみ」という意味で、両端が狭い土橋になっていて行き止まりのような形になる。寄せ手側には行き止まりのからくりだが、城兵からとすると格好の馬出（出撃用）となり、実に巧妙な防御が施されている。こうした「行き止まり」の曲輪は二の丸の南側にあり、大変貴重な城郭遺構である。

## ⑩中の丸南側の防御（櫓門の推定）

中の丸の南側は、二方向から攻め寄せた敵が合流できる場所だった。この場所には土橋の前面を守る防御設備が必要である。土塁の残り方から考えて、櫓門があったのではないかと推定される。

## ⑪中の丸（本丸の次に重要な曲輪）

「中の丸」の山腹には、腰曲輪と呼ばれる平場が多摩川に向かって数多く設けられている。このことから、北側の多摩川方面に対して警戒していたと考えられる。付近には河越道の渡河地点である「平の渡し」がある。この重要な地点を抑えるために滝山城が構築されたと考えられる。

## ⑫滝集落から本丸への侵入路（搦め手口からの侵入路）

本丸北西側の柵形虎口（出入口）は滝集落からの侵入路を抑えている。この侵入路を防御するため、出丸と本丸から挟み撃ちができるように工夫している（二方向から敵を挟んで攻める）。出丸の先端部分には馬出を備え、縦横の堀と共に強力な防御態勢を整えていたと思われる。

## ⑬本丸南側柵形虎口（小宮曲輪からの城道）

本丸の主たる虎口（出入口）は2ヶ所ある。1ヶ所は中の丸から引き橋を渡って入る柵形虎口。もう1ヶ所は南側に設けられている。柵形虎口は敵の直進を防ぐための工夫である。もし敵がこの柵形虎口に侵入すると、体の左側に城兵の攻撃を受けることになる。現在でも柵形虎口が大変よく残っている城郭遺構である。



本丸への木橋

## ⑭本丸への木橋（最終的な砦へ導く橋）

当時の木橋はもう少し下に架けられていた。おそらく、中の丸に敵が押し寄せたら本丸へ半分程引き込むことができたと思われる。人工的に掘られた大堀切の上に架けられており、本丸が最終的な砦となっていた様子がわかる。「大堀切」はもっと深かったことが試掘によって確認されている。

## ⑮木橋（引き橋）

唯一尾根続きのこの場所は、滝山城の弱点であったと考えられる。そのため、防御は厳重を要した。この橋も「引き橋」だったと思われる。橋の下の堀は大池の土手とつながり、一大防御線を考えた縄張（城の設計）になっていた。

遺構説明板設置 平成24年3月 東京都建設局西部公園緑地事務所  
文責 特定非営利活動法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会  
ARアプリ滝山城跡 平成28年3月 八王子市（観光課）構築

## 国指定史跡 続日本100名城 滝山城 城攻めマップ

発行日 平成30年11月 縄張図提供 中田正光  
資料提供・協力 特定非営利活動法人 滝山城跡群・自然と歴史を守る会  
発行者 西武・多摩部の公園パートナーズ  
お問合せ 都立小宮公園サービスセンター（都立滝山公園指定管理者）  
〒192-0043 東京都八王子市暁町2-41-6  
電話：042-623-1615 FAX：042-628-4544

\*ARアプリについてのお問合せは、八王子市観光課 042-620-7378

国指定史跡

続日本100名城

# 滝山城 城攻めマップ

ARアプリも使える戦国の名城



滝山城主 北条氏照



滝山城鳥瞰図：滝山城は、自然地形を巧みに利用し、巨大な空堀で主郭部を囲んでいます。中世城郭の最高傑作ともいわれ、遺構もよく残されています。

「滝山城」は、大永元年（西暦1521年）に武蔵守護代の大石定重が築城し、後に大石氏の養子になった北条氏照（小田原北条氏四代氏政の弟）が拡張、改修したとされてきました。しかし、近年の研究により、北条氏照は由井領を支配していた大石綱周の養子になり、「浄福寺城（由井城）」（八王子市下恩方町）に居住し、その後、永禄10年（1567年）までに滝山城を築城して移転したと考えられてきています。

滝山城が築かれた加住丘陵は東西に長く、北は多摩川に浸食された急峻な断崖、南は谷戸が入り組んだ複雑な地形になっています。こうした地形を利用した滝山城の特徴は、「二の丸の集中防御」です。「二の丸」は3つの尾根が集中していて、各々に「馬出」を設け、「二の丸には敵を絶対入れさせない」という堅固な構えになっています。永禄12年（1569年）10月2日に甲斐の武田信玄が上野から武蔵に侵入して滝山城を攻撃した際に、城下に火をつけて「二の丸」まで攻め込んだと伝えられています。しかし氏照が、当時同盟関係であった上杉謙信の重臣に出した手紙によると、城下に兵を出して戦ったとあります。

その後、氏照は甲斐を重視して八王子城の築城に取り掛かり、天正15年（1587年）ころまでに、移って行ったと考えられています。

# 滝山城

## 城攻めマップ

城の大事な構造を示すものを「縄張図」といいます。滝山城の縄張図を見ると、二の丸の周りに強固な守りの構造が集中し「ここから奥には敵を入れない」という強い意志が読み取れます。また大池南、弁天池北西にも堀、土塁などによる「絶対防衛ライン」などを見ることができます。

この「城攻めマップ」は、縄張図に遺構解説板やARアプリポイントの位置を重ねたものです。



ARアプリの画面

八王子市公式アプリ  
「AR滝山城跡」

下記QRコードから無料でダウンロードできます。



- = 遺構説明板の設置場所
- = 遺構説明板及びARアプリポイントの設置場所
- = ARアプリポイントの設置場所
- = 都立滝山公園案内板の設置場所

○ = 二の丸の集中防御

..... = 絶対防衛ライン

### 中世城郭用語解説

くるわ  
曲輪

城の中の区画割されている広場。中心の曲輪が、本丸（本郭）、次が二の丸（二の郭）、三の丸（三の郭）。固有名詞で、小宮曲輪、信濃曲輪など呼ぶこともある。

うまだし  
馬出

曲輪の出入り口（虎口）の前に備えた広場（曲輪）。

こぐち  
虎口

曲輪の出入り口のこと。虎口が直角に曲がっているのを、櫛形虎口と呼ぶ。

どるい  
土塁

土を高く盛った土手のこと。土居とも呼ぶ。

とほし  
土橋

左右が堀で橋のような通路。直角に曲がっていたり、カーブしたものもある。

ほり  
堀

曲輪の周辺に沿って長く土を掘った所。水が入った堀を水堀、空っぽの堀を空堀と呼ぶ。また、城の上から下に向かって掘られた堀を縦堀・竪堀と呼ぶ。

